

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 オーバル	代表者	室井 啓子	法人・ 事業所 の特徴	H29年の一年間は、地域との関係性も深まり、小規模多機能型居宅介護の地域における役割に応える実践力を蓄えることができた。又一人暮らしの方を自宅での看取り体験をしたことで、ケアの質に深味が増したことは大きな糧となり、今後に生かしたいと思っています
事業所名	おーばる・ほーむ	管理者	室井 啓子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	4人	0人	人	1人	1人	2人	人	12人

項目	前回 29 年の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①レーダーチャート式にして改善計画を各項目別に達成が可視化できるようにしていく。	改善項目が可視化されたことで、「出来ていない」項目がはっきりとわかることで、事業所全体の課題として認識できた	・項目を前回と比較した内容になっていることを理解していないと解り難い	説明・報告を丁寧に行う
B. 事業所のしつらえ・環境	①未決の調査を実施し委員会で報告する。 ②調査結果から事業所の課題を抽出し、目標や工夫改善に反映する。	今回も未決になっている所を、委員さんからの協力が得られることによって気持ちの負担が軽減された	・小さな改善は、即行っている	近隣地域の方に協力して頂く
C. 事業所と地域のかかわり	①小規模の実際の内容を説明し理解を深めてもらう。 ②居宅介護事業所へPRをする。	実際にボランティアとして関わることで、介護を知ることができた	・全員・誰もががとなると難しいが、関係性は年々深まっている	事業の説明を周辺地域対象に行う
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	①日々のモニタリングによって、生活の「暮らしのマップ作り」が広がり深めることで在宅生活の充実を図る	地域の相談ケースはなかったが、自治会福祉部で知ることができた	・どう答えてよいか解り難い項目がある	情報収集と顔なじみになる
E. 運営推進会議を活かした取組み	② 短期目標は 6 か月間、長期目標は 12 か月間にして達成評価を図る	取組みに差はあるが、意欲的に運営している	・小規模の役割が見えてきた ・事例検討までは難しい	福祉の充実に向け、周辺地域の困り事に協力する
F. 事業所の防災・災害対策	③ マニュアルを見える所に置く。 ④ 3/11 と 9/1 を事業所の防災訓練日にして備える	報告もあり計画実施は確認できる。自治会防災の協力をしている	・状況に応じて避難先を分けて考えてみてはどうか	避難先として第一段階・第二段階の協力先を作る